

KiKiの広場

2016年 4月 1日

cafe NO.66
KiKi



3月も終わりのある日の夕方、家の中にいると外から「パチン！パチン！」と音が聞こえてきます。最初はヒヨカカラスが何かいたずらをしているのかと思っていましたが、あんまり音が続くので庭に出てみると、なんとそれは藤の実が弾けて飛ぶ音でした。木から音が出る、それだけでもすごいなあと思いますが、急に暖かくなったので一気に乾燥したのでしょうか、同じ日の同じ時間帯に一齐に弾き出すのも不思議です。そんな場面に遭遇し、「おおおっ！」私ってすごいと感動し喜んでいましたが・・・

後で調べてみたところ、本当は実をつけたままにしておく栄養を摂られて木の成長が弱くなるので、枯れた花房や豆鞘はこまめにとらなければならないそうです。私に音を聞かせたのは、あまりにもほったらかしにしていたので、「おいおい、ちゃんと手入れしてくれよ。」という、必死の訴えだったのかもしれない。木にもいろいろな思い、言いたいことがあるんだろうなあとしみじみ感じました。

さあ、新年度の始まりです。改めて、周りに目配り・気配り・心配りができるように、五感を研ぎすませて、日々を大切にしていきたいと思います。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

4月の予定

毎日曜日	定休日
1 2日(火)	休館日



「今月のケーキ」…「シトラスピーチのクスタードケーキ」350円

生地の上にクスタードを重ね、白桃、ピンクグレープフルーツ、オレンジを乗せました。柑橘系(シトラス)と白桃(ピーチ)とクスタードが織りなす、スイートでフルーティなケーキです。



今月のお気に入り…「春を思いっきり感じよう！」

～「くものすおやぶんといのちのちょう」「うさぎのくれたパレエシューズ」「たんぼぼ」「はるはゆるゆら」「つくし」などなど～



「くものすおやぶんといのちのちょう」は、春爛漫の虫の町での大捕り物帖です。盗人の「かくればね」から、ありが主人の老舗のお菓子屋『ありがたや』の倉を守る為に、「くものすおやぶん」こと鬼蜘蛛のあみぞうと、はえとりのぴよん吉が大活躍します。「かぜもねえのに、やけにさくらがちるじゃねえか」などというセリフがとっても粋で、町並みや町娘、家の中の建具や小物までこまごま描かれており、時代劇を満喫できます。奇想天外なストーリーで、とにかく楽しめる絵本です。



今月の本棚…「井上洋介の世界」

～「まがればまがいみち」「つきよのふたい」「おぼけにてそうろう」「やまのねこやしき」「こそだてゆうれい」などなど～



今年の2月に、84歳で亡くなった井上洋介さんを取り上げてみました。井上さんというと、ナンセンス絵本というイメージがありますが、「くまの子ウーフ」や昔話などの挿絵もたくさん描かれています。小学生の時に、『絵を描いて生きる』と決めたそうで、絵本だけでなく、漫画・油彩・鉛筆画・舞台美術とその画業は様々な領域に渡っています。戦争中に少年時代を送った井上さんの作品の根底にあるテーマは“不条理”だと言われていますが、「ナンセンスって、笑いでもあるし、風刺でもある。笑いがないと人間の呼吸が伝わらない。」という言葉通り、笑わせた後に考えさせるのが井上流だそうです。



ほっとスレイク

受付の学生スタッフ2人の旅立ちにともなって、新たに2名仲間入りし、ついに3代目学生スタッフが誕生しました。実はすでに昨年の10月から、練習を兼ね受付業務にあたってくれています。まだちょっぴりぎこちない2人ですが、笑顔の可愛い素直な若者たちです。先日彼ら4人の歓送迎会があり、初代の2人も遠方より駆けつけてくれました。初代と3代目は初対面でしたが、いろいろなアドバイスをもらったりして、遅くまで大いに盛り上がりました。ヒストリアという場所で想いを共有できる仲間が増えていく・・・嬉しいですね。